

松江大橋南詰乗船社会実験

実施結果の概要



社会実験実施概要 松江大橋南詰乗船社会実験(私と渡 ~Watashi to watashi~)

【実施日】10/14(土) 15(日) 22(日)

【実施時間】いずれの日も 10:00～15:30

※ 荒天により 21(土)は全便欠航

15(日)は3, 4便、22(日)は4便を短縮運航
(第2乗船場～源助公園)

「仲秋の嫁ヶ島」の船に
お乗り換えできます

- 【凡 例】
- 乗船場
 - 交流空間
 - まちあるき動線 (想定)
 - 運航ルート
 - 運航ルート
(仲秋の嫁ヶ島※)

(※)NPO法人水の都プロジェクト協議会イベント

運航時刻表

	第2乗船場	源助公園	岸公園	源助公園	第2乗船場
1便	10:00	10:10	10:30	10:50	11:00
2便	11:30	11:40	12:00	12:20	12:30
3便	13:00	13:10	13:30	13:50	14:00
4便	14:30	14:40	15:00	15:20	15:30



1 社会実験の目的

大橋川改修に伴い、松江大橋南詰に整備を計画している「水辺の賑わい拠点」について、市民が求める将来像や周辺の賑わい創出に与える効果、及び今後の整備に向けた課題などを把握するため。

2 社会実験での調査・検証内容

乗船者及び白潟地区住民の皆様アンケート調査を実施。

【検証①】市民が求める「水辺の賑わい拠点」の将来像

(1) 水上交通の発着場としての機能

運航ルート、料金など水上交通に対する市民ニーズを調査

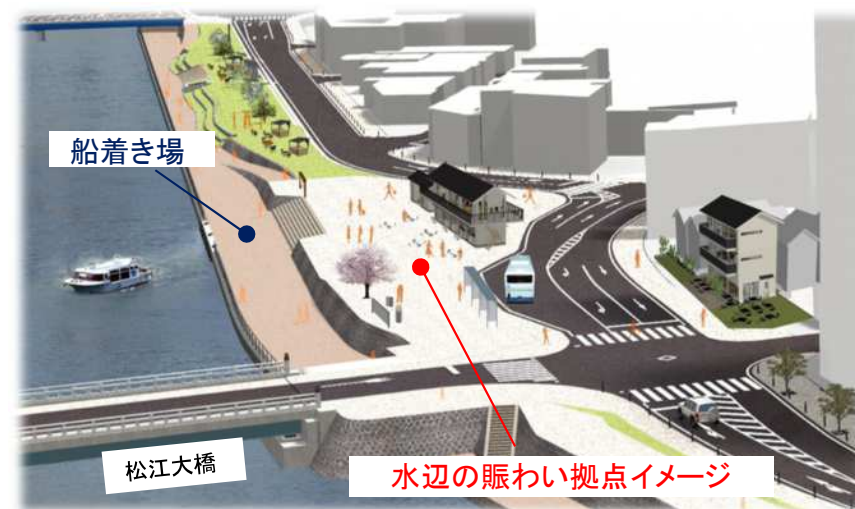
(2) 「水辺の賑わい拠点」の施設

「水辺の賑わい拠点」の施設に対する市民ニーズを調査

【検証②】「水辺の賑わい拠点」が周辺の賑わいに与える効果

「水辺の賑わい拠点」が周辺の人通りに与える効果について調査

【水辺の賑わい拠点のイメージ】



【社会実験の状況】



松江大橋南詰乗船社会実験の実施結果

松江大橋南詰に仮設船着場を設置し、宍道湖遊覧船第2乗船場(JR松江駅北側)～源助公園(松江大橋南詰)～岸公園を渡船でつないだ。(白潟地区来場者数:370人、乗船者数(延べ人数):295人)

源助公園の仮設船着場



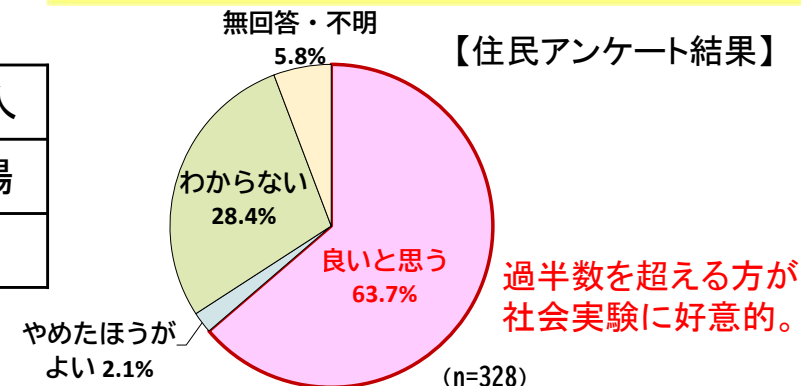
岸公園の仮設船着場(仲秋の嫁ヶ島)



白潟地区来場者数(全体) 約370人	
源助公園	ごうぎん駐車場
約260人	約110人

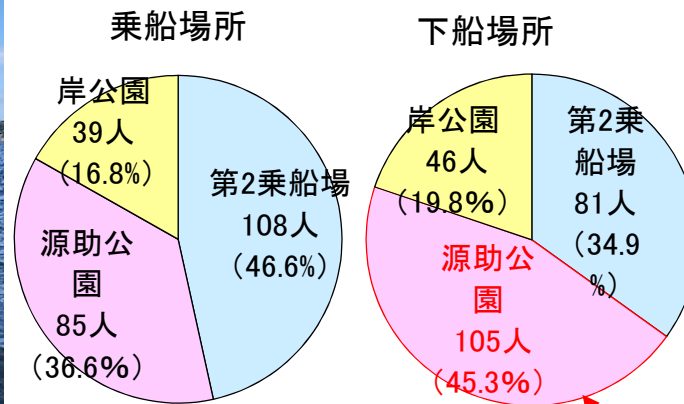
今回の社会実験の取り組みをどう思うか。

【住民アンケート結果】



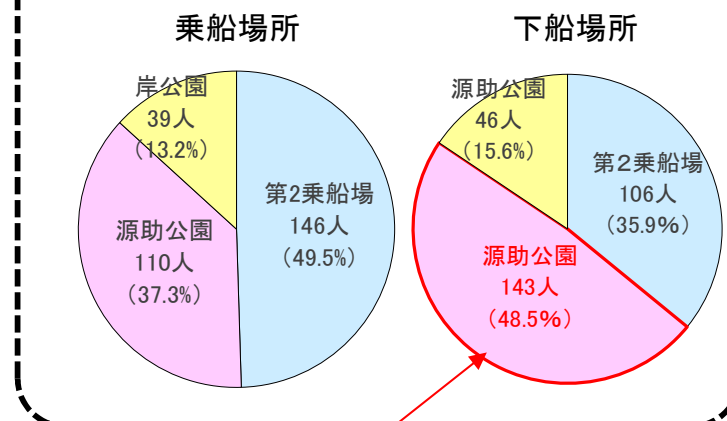
全区間(第2乗船場～源助公園～岸公園)を運航した9便の乗降場所の内訳

乗船者数232人(延べ人数)



(参考) 第2乗船場～源助公園のみの運航を含む全便12便の乗降場所の内訳

乗船者数295人(延べ人数)



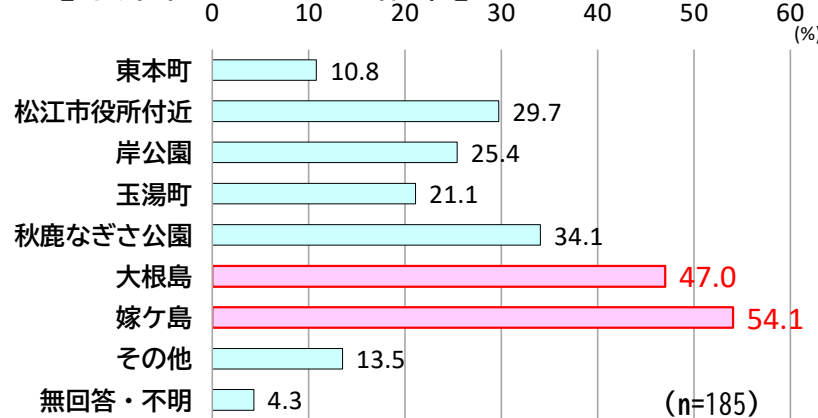
下船場所は源助公園が最も多い。

社会実験による検証①(市民が求める「水辺の賑わい拠点」)

(1) 水上交通の発着場としての機能

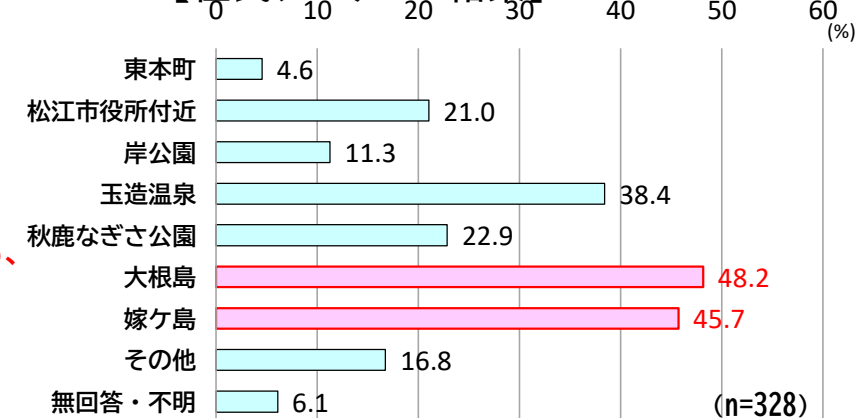
松江大橋南詰から船でどこに行けたらよいと思いますか。

【乗船者アンケート結果】



乗船者、地域住民とも、大根島、嫁ヶ島への運航ニーズが多い。

【住民アンケート結果】



その他の内容

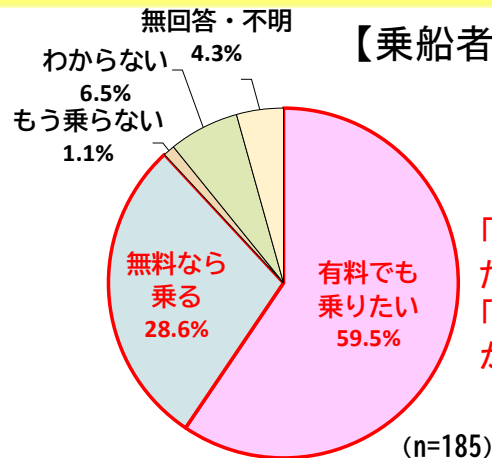
- ・出雲空港・米子空港・美術館・ゴビウス・フォーゲルパーク
- ・イングリッシュガーデン跡・松江城、県庁付近・松江駅・イオン近く
- ・水道局の近く・中海・由志園・米子港・境港、隠岐汽船乗り場
- ・美保関・天神川を巡る・宍道湖一周 など

その他の内容

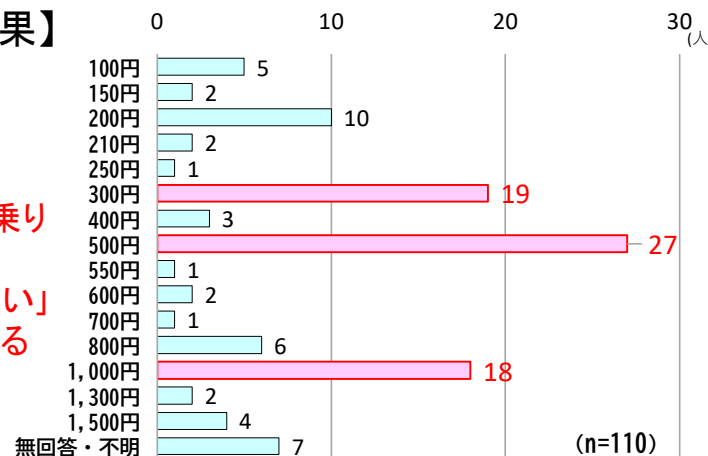
- ・松江駅・第2乗船場(2)・松江城(2)・出雲空港(2)・空港(2)・東出雲(2)
- ・宍道湖大橋北詰・くにびきメッセ・黒田町・玉造温泉・美保関
- ・フォーゲルパーク・湖北線沿いの珈琲店・佐太神社・出雲大社(平田で降りて)
- ・レイクラインとアクセスの良い所

今後も機会があれば船に乗りたいですか。いくらまでなら乗船されますか。

【乗船者アンケート結果】



「機会があれば乗りたい」が約9割
「有料でも乗りたい」が過半数を超える

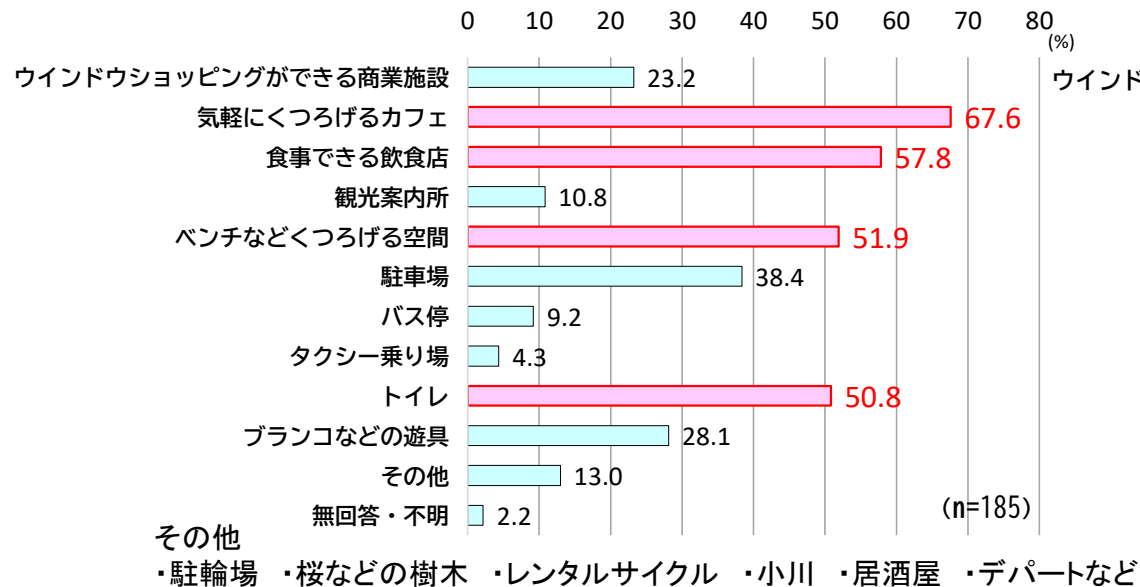


社会実験による検証①(市民が求める「水辺の賑わい拠点」)

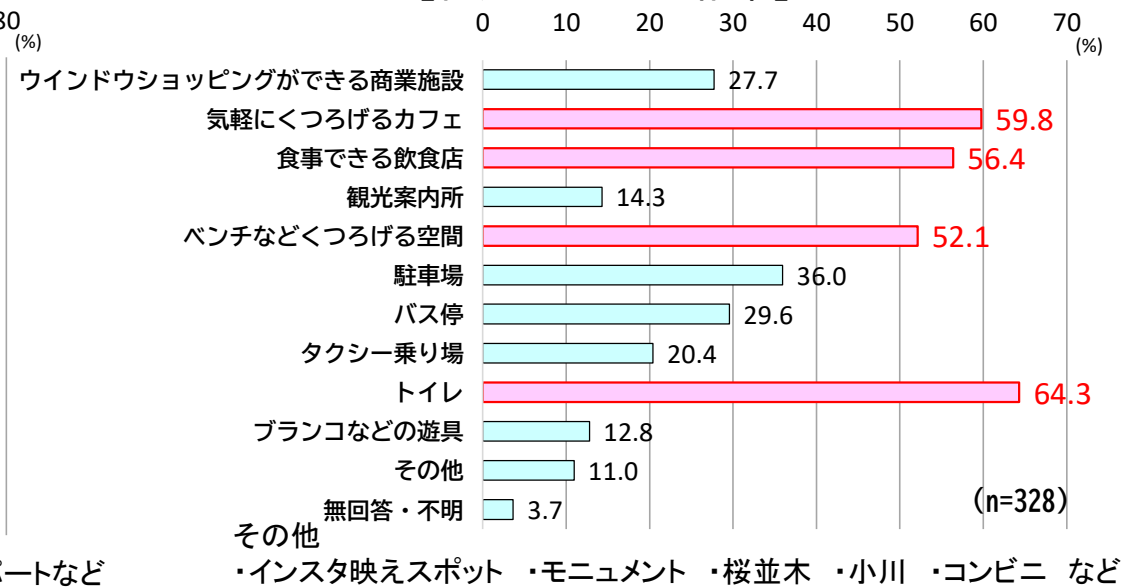
(2)「水辺の賑わい拠点」の施設

「水辺の賑わい拠点」にあったらよいと思う施設は何ですか。

【乗船者アンケート結果】



【住民アンケート結果】

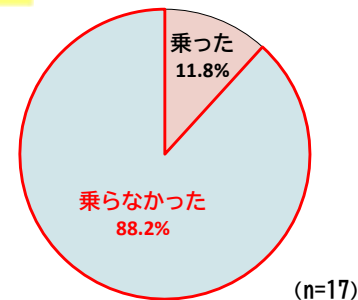


乗船者、地域住民とも、「気軽にくつろげるカフェ」「食事できる飲食店」「トイレ」「ベンチなどくつろげる空間」を求める意見が多い。

【参考】住民アンケート結果

社会実験の会場に行かれた方は船に乗られましたか。

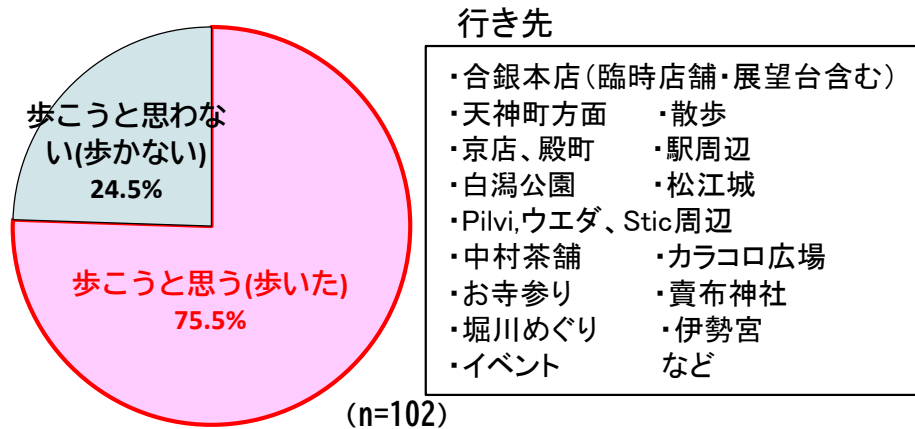
地域住民の来場者のうち、乗船されずに交流空間に立ち寄るのみの方は9割近くに上る。
地域住民が集まる交流空間となる要素を有している。



社会実験による検証②(周辺の賑わいに与える効果)

源助公園の乗船場を利用される方に伺います。
源助公園周辺のまちを歩かれます(歩きました)か。

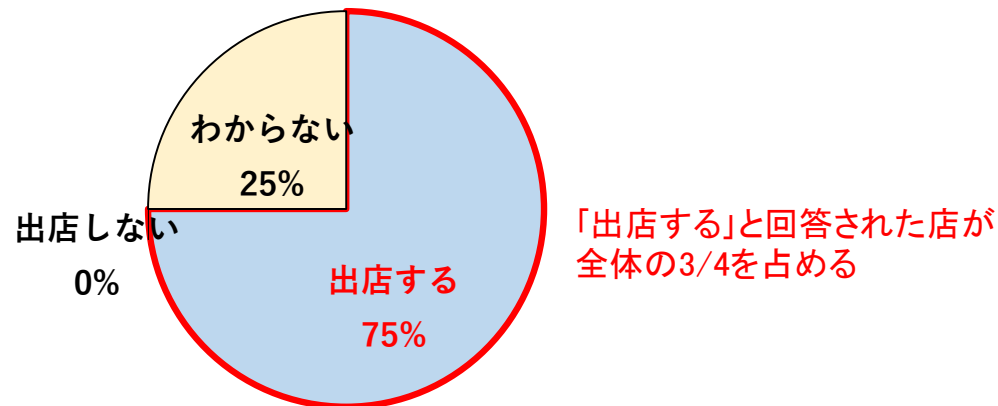
【乗船者アンケート結果】



「歩こうと思う(歩いた)」が全体の3/4を超える

【参考】出店者アンケート結果(出店者8社/10社)

今後、社会実験を開催した場合、ご出店して頂けますか。



ごうぎん駐車場の来訪者 110人(3日間)



白潟本町通りで本格的に店舗営業されるとしたらどのような条件が整っていればご検討されますか。

- ・イベントの多い通り
- ・近くに駐車場
- ・近くにどのような観光施設があるなど分かりやすい地図
- ・景観の統一は大事
- ・同じ時間に開いた屋台に近く違うお店のメニュー食べれる通
- ・家賃の価格
- ・人が集まる要素
- ・明確なビジョンと実現。店舗がバラバラだともったいない
- ・初期段階の家賃補助
- ・松江らしいシックで落ち着いたおしゃれな通り、大人の町松江

松江大橋南詰乗船社会実験による検証結果及び課題

【検証①】市民が求める「水辺の賑わい拠点」の将来像

(1) 水上交通の発着場としての機能

- ・乗船者のうち9割近くの方が「機会があればまた乗船したい」と回答。
- ・運航ルートとしては、嫁ヶ島、大根島をつなぐ運航ルートを希望する意見が多かった。

(2) 「水辺の賑わい拠点」の施設

乗船者及び地域住民とも、カフェ、飲食店、ベンチ、トイレなどのくつろげる空間を求める意見が多かった一方、インスタ映えスポットやレンタサイクル、桜並木など、松江の魅力を高める場所となるよう、期待する意見が多く寄せられている。

【検証②】「水辺の賑わい拠点」が周辺の賑わいに与える効果

下船場所は源助公園が最も多く、また、源助公園で船に乗降される際に周辺を街歩きされる方は75%を超えていることから、「水辺の賑わい拠点」が周辺の賑わいに寄与する効果は高い。

【課題①】 運航事業者・漁業者との調整

- ・地形上の制約により矢田渡船観光の小規模な船舶を利用したが、白鳥観光と運航ルートが重複するため、安全な運航による時間調整や限られた乗船客の市場の調整が課題となった。
- ・宍道湖漁協の操業による調整で、運航ルートや運航時間などの検討が必要であった。

【課題②】 地域との連携

- ・周辺の賑わいを創出するためには、商店街、都市再生推進法人や事業者と連携して取り組む必要がある。また、白湊本町通りの歩きたくなる歩行空間や沿道のビジョンなどの検討が必要。